

## 就職先への質問調査による本学歯科衛生教育の評価結果

園木 一男 泉 繭依 船原まどか 邵 仁浩 中道 敦子 日高 勝美

九州歯科大学歯学部口腔保健学科

The results of questionnaire investigation to employer on our dental hygiene education

SONOKI Kazuo, IZUMI Maya, FUNAHARA Madoka, SOH Inho, NAKAMICHI Atsuko and HIDAKA Katsumi

School of Oral Health Sciences, Faculty of Dentistry, Kyushu Dental University

抄録：本学中期計画の実施事項「就職支援の充実」における評価指標「就職先的良好評価60%以上」を確認するため、1期生から4期生の卒業生合計96名に対する就職先からの評価を調査した。方法は、卒業生に採用者に対する質問調査用紙（職場の種別などや大学で受けた歯科衛生教育内容が活かされているか、本学の教育で良い領域と改善を必要とする領域、社会人基礎力を問う8つの質問）を郵送し、採用者、すなわち職場の上司に記入のうえ返送してもらった。卒業生29人分（回収率30.2%）の回答を得た。職場の種別は病院歯科16名、歯科医院10名、行政機関1名、企業2名であった。「大学で受けた歯科衛生教育内容が活かされているか」では、「非常に活かされている」と「やや活かされている」の合計が95.7%、「本学の教育で良い領域と改善を必要とする領域」では、一般教養、歯科臨床教育の評価が高く、臨床実習、専門基礎教育の評価が低かった。社会人基礎力の評価では、「非常に良い」と「良い」の合計が86%以上であった。以上のことから、本学学生の就職先からは、仕事ぶりや就業力において60%以上の良いという評価をいただいていることが確認された。一方、本学の教育が活かされていないと評価された「患者対応」や「診療補助」は、最も本学教育で改善を求められた「臨床実習」と関係があると考えられ、「臨床実習」のさらなる充実が、本学教育の課題であると思われた。

キーワード：就職先、卒業生、質問調査、教育、社会人基礎力

## 緒 言

九州歯科大学歯学部口腔保健学科は平成22年（2010年）4月に設置され、令和元年（2019年）が10年目であった。その間、平成26年（2014年）3月には第1期生25名が全員卒業、国家試験に合格し、歯科衛生士として就職あるいは大学院へと進んでいった。令和2年（2020年）3月には第7期生が巣立つ予定である。

一方、九州歯科大学は、平成18年（2006年）に公立大学法人となって以来、教育、研究、社会貢献などの各分野における、6年間を1期とする中期目標が策定されており、その中期目標を実現すべく中期計画に従って運営されている。令和2年度（2020年度）は第三次中期計画の3年目にあたる。教育分野においては、第一次中期計画（平成18年～平成24年）より「就職支援の充実」が盛り込まれており、第二次中期計画（平成24年～平成29年）からは、就職先の企業・病院・施設からの「良好評価60%以上」が達成目標として記載された。

そこで卒業生に対する就職先からの評価を問う質問調査を開始することとなり、平成28年（2016年）3月、まず1期生と2期生を対象に質問調査を実施した。そして今回1期生から4期生（平成29年3月卒業）までの卒業生に対する就職先からの評価をまとめ、その結果を報告することとした。本調査の目的は、卒業生に対する就職先からの評価が「良好評価60%以上」となっているのかを確認することである。

歯科衛生士の就職先への調査はこれまでに数件の報告がある<sup>1-7)</sup>。いずれも学生のキャリア教育に反映させること<sup>1,5,6)</sup>や歯科衛生士養成のあり方の資料にすること<sup>2,7)</sup>、調査実施校の教育について点検・評価すること<sup>4)</sup>を目的に行われ、調査実施校の教育改善に用いられている。本調査も同様の趣旨を有するが、さらに本学のキャリア教育の効果を確認する目的から、社会人基礎力についても就職先に質問することとした。社会人基礎力は、経済産業省が提唱する「職場や地域社会の中で多様な人々と仕事を行っていくうえで必要な能力」、すなわち就業力とされ、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、